



いのち・絆・学び

山辺町立山辺中学校 学校だより 令和2年1月23日 第14号 文責：校長

日上市立駒王中学校との交流会開催



大寒が過ぎたとはいえ雪が少なくすこしやすい日々が続く中、1月22日、日上市立駒王中学校の2年生約90名が大型バス2台で本校を訪れ、2年生との交流事業を開催しました。日上市と山辺町は、平成16年に友好都市を結び、それ以来様々な形で交流が進められており、今回もその一環として行われました。

◎ どうして日上市と山辺町は友好都市となっているの？

それは、今から400年以上前の戦国時代にさかのぼります。山形城主：最上義光（もがみよしあき）の4男、義忠が1601年に山野辺城主に任じられました。それを機に山野辺義忠と名乗るようになり、山野辺城主として城下町の発展等に手腕を發揮しました。しかし、最上家のお家騒動（最上義光亡き後、家督を継いだ義忠の兄が急死し、その息子が跡継ぎとなりましたが、幼少の身であることから義忠を山形城の城主にと望む家臣がいて争いが生じ、そのことが幕府に知れ渡ってしまいました。）に巻き込まれ、義忠は、備前岡山藩池田家に13年もの間、囚われの身となりました。

しかし、その後才覚のある義忠は水戸藩に招かれて、41歳から77歳まで客分家老として仕えました。その間、義忠は、徳川光圀（みつくに）（テレビで有名な水戸黄門）の教導役（武芸や教えを導く役）となって活躍。藩政にも参画して水戸藩の骨格づくりに大きな影響を与えとされています。その後も山野辺義忠の子孫は、代々水戸藩の家老

として勤め活躍しました。平成16年には、現在の当主16代義達（よしみち）様が、山辺町に訪問されました。そのような歴史と関係により友好都市になっています。

◎どんな交流をしたの

○ 体育館において交流会

山辺中に到着後、階段教室での昼食やりハーサル等を終え、いよいよ交流会が始まりました。山辺中と駒王中の生徒が同じ会場に整列し、少し緊張する様子が見られたものの、和やかな交流会となりました。交流会の幕開けは、山辺中による「風の民の歌」の歓迎の合唱です。



○ 山辺中学校の紹介

山辺中学校の生活や学習の様子を、簡単なムービーにして紹介しました。学校行事の他、今年度重点的に取り組んでいる、あいさつや黙働清掃、3分前ウォーミングアップ学習、午睡などをインタビューも交えて紹介しました。



○ 茨城県や日立市、駒王中学校の紹介：合唱

駒王中の生徒がまとめてきた茨城県や日立市の歴史や産業、名所などの紹介と、駒王中の様子を、パワーポイントを使って紹介してくれました。「壁がない」をキーワードに、教室の壁、先輩後輩の壁、地域との壁がないことなど、日頃の実践の様子が見える内容でした。さらに世界の「日立グループ」や「大煙突」があることなどを、面白おかしく紹介してくれました。また駒王中も山辺中と同じように、あいさつやボランティアに積極的に取り組んでいることが分かりました。

その後、駒王中の合唱が披露されました。

最後に全員で記念写真を撮り終了となりました。



短い時間でしたが友好都市の中学生どうしによる有意義で楽しい交流会となりました。ご協力いただいた関係各位に深く感謝いたします。